

# 平成26年度 燕市・西蒲原郡算数部 活動報告

部長 坂井 育男(弥彦小学校)

## 1 研究主題

・基礎・基本を活かした活用の工夫～算数的活動を通して～

## 2 研究の概要

・会員の指導の向上に寄与する年2回の授業公開と講演会を開催する。

## 3 研究の実際

(1) 第1回部会 師範授業と講演会 (講師: 燕市教育委員会指導主事 佐藤 満 様)

◇6月4日(水) 会場: 燕西小学校

◇師範授業「とんだ長さ」(4年)

◇講演会 「基礎・基本をいかした活用の工夫」

<師範授業から>

- 2つの数量の一方を1とみたときに、テープ図を実際にかくと、効果的である。その際、テープ図の意味を全員で理解し共有することが必要不可欠である。
- 可視化(見えないものが見えるようにすること)で、子ども同士の学び合いにつながっていく。

<講演会の概要>

- 思考力・表現力を高めるためには、子どもがつまづきやすい問題・発展的な問題を与えていく。これは、教科書の問題でも対応できるものもある。
- 子どもの記憶に残る授業を行うことが大切である。それは、子どもの心に残る授業、つながりが見える授業、繰り返し特訓した内容が見える授業である。
- 活用型の授業は、教師の仕掛けが必要である。
- 全国学力状況調査では、「割合」が課題。「割合」の授業改善を行う必要がある。

(2) 第2回部会 研究授業 (指導者: 燕市教育委員会指導主事 佐藤 満 様)

◇12月3日(水) 会場: 燕北小学校

◇研究授業「図形の面積」(5年)

◇授業者: 燕北小学校 大井 英揮 教諭

<研究授業から>

- プロジェクターを活用した導入は、テンポもよく分かりやすかった。
- 既習事項の掲示及び普段の算数指導により、意見の交流では頂点の記号や算数の用語をしっかりと使って説明できていた。
- ワークシートの工夫により、多様な考えを出すことにつながった。

<ご指導の概要>

- 「見通しは全体」→「自立解決は個」→「話し合いは全体」の流し方がよい。
- 授業の導入での見通しのもたせ方が重要。見通しの段階で解決方法を板書し、見通しをもたせると、子どもは自立解決ができる。
- 図形の面積の求積の場面では、数値の扱い方が鍵となる。実測では、長さがそろわなくなるので、どうやって数値の違いをクリアーするかがポイントである。



## 4 成果と課題

- ・ 公開授業を通して、授業者が主題に迫るために様々な工夫をし、児童の主体性とやる気を引き出す提案のある授業の実践が行われた。2回とも燕市教育委員会佐藤指導主事様から会員にとって示唆に富む、的確なご指導をいただき、充実した研修になった。新年度は教科書改訂の年に当たり、教材研究に力を注ぎ、さらに児童が一層目を輝かせる授業になるよう算数部として取り組むことが求められる。